

【評価実施概要】

事業所番号	170500821		
法人名	医療法人 愛全会		
事業所名	グループホーム さんるーむ		
所在地	札幌市南区川沿13条3丁目3-10 (電話) 011-578-1131		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構 Kネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成19年12月18日	評価確定日	平成20年1月22日

【情報提供票より】(19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	(木造) 造り		
	2 階建の	1	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(53,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	月額	43,000円	

(4) 利用者の概要(12月1日 現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	1 名	要介護2	3 名			
要介護3	3 名	要介護4	2 名			
要介護5	要支援2					
年齢	平均	91.5 歳	最低	83 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人愛全会 愛全病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは緑豊かな南区の閑静な住宅街の一角にあり、国道230号線に近接、商店街に近く生活の利便性が確保されている。木造2階建ての建物は瀟洒な造りで地域にしっかりと馴染んでいる。事業法人の病院・特養・老健も近在し、介護支援の連携を得やすく、健康面に24時間対応できる密接な関係に家族の安心感も高い。一階がグループホームで、各居室にはトイレ・洗面所があり、使い慣れた家具・ベッド等が持ち込まれ居心地の良さを整えている。二階のデラサービスで毎週曜日毎企画される日本舞踊・体操・書道等に参加し、外部と交流しているのが特徴的である。職員は笑顔が多く、利用者のペースに沿って一緒に生活を送っており、利用者が地域の中で生き生きと暮らしている事が感じ取れた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価について、管理者・職員は、自己・外部評価の意義を理解し、加ファリス会議で「地域との交流」などの見直しに取り組み改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組み、現状分析・取り組み方針などをきめ細かに検討し、作成している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目 外部4、5、6)
	運営会議は民生委員・地域包括支援センター・町内会・家族の参加があり「日々のケアサービスの実践」などを報告し、参加者より「地域との交流」「家族への報告」等の意見・要望を受け、検討しサービスの向上につなげている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	運営会議に家族の参加を呼びかけし、ご家族アンケートの実施・苦情報告書用紙(ホーム内)設置・家族交流会等を通して意見・要望の表出の機会としており、それらを運営に反映させている。今後、意見箱設置・家族会を設ける等により更に言い出しやすい場面作りを検討している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の夏祭り・保育園の運動会・大学のお茶会などに参加し交流を深め、事業所での実践を伝えるようにしている。今後、町内会に広報の配布を検討し地域で必要とされる役割を築いていく努力を重ねている。

評価結果（詳細）

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念「いのち輝いて“今”を幸せに」は、社会的交流の場・つどい・くつろぎの場としての役割を担い、個々人の馴染みの暮らしの継続を旨としてサービスの実践に努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は、カフェインと日々の申し送り時に、理念を確認し共有する機会としており、日常の具体的なで意見統一を図る努力を重ねている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り・保育園の運動会・大学のお茶会等に参加し交流を深めている。今後、地域に広報（さんるーむ通信）配布により更なる交流を検討している。2階のテラスサービスが毎週曜日毎に企画する、日本舞踊・書道・体操などに参加し、地元の方たちと交流を重ねている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で話し合い、自己評価の意義を理解し、反省と見直しを行って、サービスの質の確保に努めている。自己評価と外部評価が玄関ホールに掲示されており誰でも閲覧できるようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域交流の重要性を認識して取り組み、日々のケアサービスの実践と自己・外部評価の取り組み状況等を報告し、参加者より提言も受けて意見交換を行っている。地域住民（町内会婦人部）など幅広い立場の人に参加して貰えるよう働きかけも継続している。</p>		<p>前回の運営会議で話し合われた要望等について、検討経緯・結果を次回の同会議で報告することにより、取り組み状況がより分かりやすくなると思われます。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>通常の行政報告の他、札幌市管理者会議・南区グループホーム管理者連絡会議・南区グループホーム協議会等に参加交流しており、直接・間接的に行政方針などの理解に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホームでの暮らしぶりを「さんるーむ通信」の発行（2か月毎）と電話できめ細かに報告している。家族等の訪問時に、心身の状態・金銭管理（用途をサインで確認）等個別の報告も行っている。報告と話し合いの内容を「申し送り表」に記録し、ケアサービスに活かしている。今後、担当職員の異動の都度、家族等に報告することを確認している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営会議に家族の参加を働きかけし、苦情報告書用紙を設置・家族アンケートの実施・家族交流会（行事の打ち合わせ）などを、意見・要望表出の機会として具体的なサービス取り組みに活かしている。</p>		<p>意見箱の設置と家族会を設けることにより、更に要望などを言い出しやすい場面作りの検討を期待したい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動・離職を最小限に抑え、担当職員は、交代の際に利用者のダメージと家族の不満や不安を防ぐために、引き継ぎの時間を十分に取り、対応を工夫して配慮をしている。</p>		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	札幌市・社会福祉協議会・北海道認知症ケア研究会等が主催する外部研修と事業主体法人の教育委員会が企画する接遇・ケアプラン・認知症・蘇生術等に関する内部研修により育成している。研修内容の報告書作成と職員回覧も行い、全職員の資質向上を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南区グループホーム管理者連絡会議・南区グループホーム協議会に管理者と職員が参加し、研修会を受講している。今後同会議に加入事業体で、交流会と相互訪問の取り組みも検討している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用にあたって、本人と家族がホーム見学し、家庭訪問は管理者と職員が繰り返し行いサービスの説明を行い、要望も伺っている。十分な話し合いにより、徐々に馴染んで貰えるよう雰囲気作りに努めている。		
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々生活の中で、個々人のライフストーリーを踏まえて得意な分野で力を発揮して貰える場面設定を工夫し、お互いに学び合うことに留意している。衣類のリフォームの技を活かし、利用者のパジャマを仕立て直してもらうなど、皆に喜ばれ信頼を得ている利用者もいて、共に支え合う関係作りの実践例も見られる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>暮らし方が「本人はどうか」の視点に立って、セクター方式を取り入れて意向をきめ細かに把握している。日々の会話・表情・思い入れをこめた動作の中から真意を汲み取り、家族を交えて最良の支援取り組みに努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の生活記録（生活日誌・申し送り記録）により管理者・職員で意見交換と職員全員でケアプランも行い個別・具体的な情報を積み重ね、介護計画に反映している。家族アソートで意見・要望を聞き、個々人の計画説明と確認時にも家族に意見を求め、見直しながら計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎に定期的な見直しを行う他、随時本人・家族と話し合いし、その時々気づきや意見を確認して、実情に即した見直しに取り組んでいる。日常、利用者の状態変化をケア記録・申し送り表・生活日誌に記録し、新たな計画変更を活かしている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人・家族の状況に応じて、外出の支援・移送サービス等自主サービスも柔軟に行い、個々の要望に応じて同行して希望に対応し、個々の満足感を高めるよう支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業主体が医療法人で、病院の訪問看護ステーションにより定期的な担当医による往診と訪問看護師の健康管理など健康面での心配事・変化に24時間対応できる密接な関係にあり、担当医と家族との話し合いも十分行われている。個々のかかりつけ医の診療も支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>「重要事項説明書」に、重度化した場合の対応に係る指針が補足明記されており、契約時に確認し方針を共有している。医療ニーズが必要となった場合の適切な対応など、医師と家族を交えて支援の具体的内容を話し合い、段階的に取り組む方針となっている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮されており、一人ひとりの尊厳を尊重した支援がなされている。ミーティング時に、管理者は日々の関わり方を点検して、意識向上を図っている。記録等の書類は部外者の目に付かぬよう保管棚に収納されている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の生活やペースに合わせて、一人ひとりの思いと希望に沿った職員の配置を工夫し、買い物や散歩などに柔軟な対応をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表は、栄養士が作成し、利用者の身体状況・嗜好・栄養バランスに配慮されている。利用者の意志と力に合わせて、調理の下準備・盛り付け・片付けを共に行い、職員全員と一緒に同席して、同じ物を楽しく食べることを大切にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、何時でも入浴できる体制作りを努めており、夕食後本人と家族が共に入浴することができる支援もしている。本人の生活習慣・希望・身体状況に合わせて入浴に配慮し、入浴できない場合は清拭など身体の清潔を保つよう個別の対応も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	暮らしを共にする中で習慣・希望・できる力を踏まえて、何が楽しみ事になり得るかを把握し、本人に働きかけをしている。現在、温泉・コンサートなどに出かける利用者もいて、趣味を続けて貰うよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には利用者の状態・希望等その時の状況に合わせて、庭でお茶を飲む・散歩を促すなど日常的な外出の支援取り組みをしている。花見・紅葉狩り等のレクリエーションにより、戸外で生き生きと過ごせるよう工夫している。		重度・車椅子利用の人も同様に外出を楽しめるよう、ボランティア導入などで支援を行う体制作りの検討を進めている。実現できることを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関・居室とも鍵を掛けていない。利用者が出かけて行く気配を感じた時は、さりげなく声掛けをし、一人ひとりの立場になって、見守る、同行するなど安全面に配慮し、自由な暮らしの支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練を年2回実施している。協力医療機関の災害時支援体制が整っており、避難路の確認・消化器の点検も繰り返し行っている。今後、地域の防災訓練に参加することを検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立表により、栄養バランスを確保、一人ひとりの食事と水分の量をチェック表で確認し、身体状況により適正な栄養摂取量と加りの把握など個別支援に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日あたりの良い居間・食堂に季節の花・クリスマス飾り付けなど居心地の良さを整える工夫と配慮が見られる。室内の衛生管理が行き届いており、清々しい空間が確保されている。台所が使いやすい配置で調理と片付けが容易であり、浴室は明るい色調でゆったりと入浴できるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には利用者が使い慣れた家具・ベッド・馴染みの物が持ち込まれ、一人ひとりの思い出の写真と飾り物で室内が明るく、居心地の良さに配慮されていることが窺われる。		

 は、重点項目。